

大阪府立四條畷高等学校 平成 30 年度 第 2 回学校運営協議会 議事録

【1】日時

- ・平成 30 年 11 月 20 日（火）午後 3 時 30 分～午後 5 時
- ＊14 時 15 分～15 時 20 分 授業見学

【2】会場

- ・本校大会議室（東館 2 階）

【3】出席者

- ・委員：田中保和〔会長〕、梅田和子、阪口葉子、串田ゆか、乾昭彦、橋本明子
- ・校長：松本透
- ・事務局：森教頭〔事務局長〕、竹島事務長、笠松首席、新井教諭〔GL〕、吉田教諭〔SSH〕、竹中教諭、三好教諭、辻本教諭、尾野講師〔記録〕、大山〔記録／文責〕

【4】次第

- ①学校長挨拶
- ②協議・報告
 - （1）「平成 30 年度取組の進捗状況と改善に向けて」
 - （2）GL 部の活動について
 - （3）SSH の活動状況および今後の活動計画について
 - （4）平成 31 年度しよ教科書一覧について
 - （5）第 1 回協議会記録について

【5】議事・報告要旨（〈〉内は報告者）

1. 本年度の取組と改善について〈校長〉

別紙「平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価」に基づき報告。

- （1）「目指す学校像」「中期的目標」については、第 1 回学校運営協議会において報告したとおり。
- （2）「学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見」

①「学校教育自己診断」については 12 月に生徒・保護者・教職員に実施予定。結果は第 3 回協議会にて報告。

②SSH について

- ・**1 期目からの変更点** 2 期目は入学時よりまずエネルギーについて考え学び、2 年目に自由にテーマを決め、最終的には技術者コース・研究者コースを選択して取り組むこと。

- ・**追跡調査** SSH 指定校としての追跡調査の実施はまだない。SSH の 1 期生〔67 期〕が今年大学を卒業するので、追跡調査を進めたい。

③災害時の連絡体制について

- ・この 3 月で一旦終了したメーリングリストの復活。新たなシステムを構築し、今年 7 月より運用を開始。各学年の保護者の登録人数は以下のとおり。1 学年 328 名、2 学年 252 名、3 学年 211 名。

④今年度の取組内容及び自己評価について

確かな学力の育成

- ・研究授業期間を設け（6 月・11 月）、教職員間で授業見学を行いブラッシュアップを図った。
- ・生徒へのアンケートで「興味を感じる授業」の肯定率目標を 75%以上に設定（12 月実施）。他、「アクティブラーニングの実施率」、「ICT 利用率」（共に教職員アンケート）も調査予定。
- ・「e-ポートフォリオ」については未実施。GL10 校においても活用については消極的。大学についても同様。一方、「紙ポートフォリオ」については充実させている。
- ・課題研究についての肯定率も調査予定。（12 月）

豊かでたくましい人間性の育成

- ・部活動加入率は依然として高い。部活動が忙しいことにより、課題研究などで用意しているプログラムに参加できないという悩みを持つ生徒が見られる。
- ・近畿大会出場について、本校は 3 年生の引退時期が早いとため、秋の新人戦において優れた成績を上げている。
- ・校外コンテスト等での入賞は 3 件（11 月現在）。

学校力・教員力の向上

- ・全校一斉退庁日の設定（本校では水曜日）。残留者は増加（H.29…237 人、H.30…342 人）。ワーキンググループを立ち上げ、教職員の業務量の削減や平準化等を検討中。
- ・学校説明会への参加者数は 1,716 名（11 月現在）。12 月にも実施。目標人数を達成できる見込み。
- ・HP を刷新。校長ブログや部活動、SSH の活動なども教員が記録していく。
- ・地元から信頼される学校作り。小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組み。（小学校への出前授業、小中学生対象オープンラボの開催、吹奏楽部・コーラス部の発表等）

2. GL 部の活動について〈GL 部長〉

別紙「平成 30 年度 四條畷高校 国際交流事業中間報告」に基づき報告。（今年度より実施のもののみ）

（1）姉妹校バンダーバーグ州立高校生との手紙交流

- ・1 年生は手紙を作成し、2 年生では自分たちの住む町のポスターを作成（今年度より）。生徒に四條畷市民が少ないため、枚方と大阪の宣伝になった。先方に「どの市に訪れたいか」というアン

ケートを送っていたが、返事はなかった。

(2) トビタテ！留学 JAPAN

- ・文科省による留学推進キャンペーン。

(3) 学校説明会での海外研修ブースの設置

- ・昨年度実際にオーストラリア研修・ベトナム研修に参加した生徒による内容説明会。生徒の発表の仕方が、対大人の時と対中学生の時とは全く雰囲気違った。中学生に対してはとても生き生きと自身を持って説明していた。

(4) ベトナム語講座

- ・語学を学んでも、実際に使える単語が少ないこともあり、今回は現地で使えるカードを作成した。カードを見せることで、より深いコミュニケーションを図る目的。

3. 探究活動について

別紙「平成 30 年度 四條畷高校 グローバルリーダーズ (GL 部) 中間報告」に基づき報告。

(1) 1 年生 探求チャレンジ

- ・今年度より全文理学科のため、隔週月曜日 6 限に副担任主導の授業を実施（授業案は GL 部が作成）。担任はサポートにまわり、学年全体で取り組む雰囲気が作られている。
- ・夏休みの課題では「身近な課題を解決しよう」というテーマを設定し、論文を作成。2 学期以降、PDCA サイクルに則って改善していく。
- ・講演会：「研究倫理」（実施済）、「科学者／技術者とは」
- ・2 年次の課題研究において、1 年次以上の「深み」を持てるかが課題。
- ・夏休みの活動の中から、1 件「NBK フェスタ 2018」の U-19 にて準グランプリを受賞（「乾いても潤うしみ抜きシート」）。

(2) 2 年生 課題研究

- ・今年度からの変更点

ア、授業の終わり 10 分で各班 1 分間スピーチを行うこと。

…活動の引き締め、発表の慣れにつながった。

イ、授業中に担当者会議を開くこと（担当者は各クラス 2 名）。

…スムーズな連絡や、こまめに状況を確認できるようになった。

ウ、中間発表にて「MOST 付箋賞」「ベストポスター賞」「アドバイザー特別賞」を設定したこと。

…生徒のやる気が上がった。また GL 部から情報誌「Nawate Spiral」を発行した。

エ、アンケート調査にオンラインのアンケートサイトを利用したこと。

…ST での負担軽減。また多くの回答を得ることができた。

- ・担当者による差や、悪い意味での発表への慣れが出てきたこと、全体を見て回る時間が減少したこと、評価・成績への反映や中間発表後の再調査への対応が課題。

(3) 自動車事故を減らす研究を行った班の活動報告〈竹中教諭〉

- ・「高齢者の方々への調査があれば、取組みがより充実するのでは」という意見から、本校に隣接する介護老人施設に協力を仰ぎ、調査を行った。(10月上旬)

ア、画面にスクリーンで映像を映し、無作為に子供を飛び出させる。

イ、音楽を聴きながらその映像を見、ブレーキペダルを踏む。(手で押すタイプのものを作成)

ウ、その反応速度が、聴いている音楽によって変わるのではないか?という仮説を立てた。

※総時間 3 時間半、33 名の入所者の方々にご協力をいただきました。また、施設の方々が入所者の方々に声をかけてくださるなど、あらゆる面で多大なご協力をいただきました。

※施設の方のお言葉

「入所者の皆さんも、普段と違う動きや取組みをすることで顔色も良くなり、『楽しかった』『おもしろかった』と話してくれた。(中略) またいつでも声をかけてください。」

※12月12日、成果発表会を施設で行う。

(4) その他の GL 部活動について

・ Nawate Explorer Project

「e-ポートフォリオ」のアナログ版。いろいろな行事を紹介し、生徒自らのインプットになる事、アウトプットできるものに積極的に参加させる。こまめな記録が重要。

・ 夢 AWARD in 四條畷

四條畷市の地方創生イベント。本校より 2 チームの町おこしプランを発表予定。

・ NBK フェスタ 2018

生徒が企業家の前で発表する。対外部発表への指導、生徒が応募してからのもう一押しが課題。

4. SSH について

(1) SSH ブログの開設/HP の刷新

- ・ SSH 関連の情報・報告を随時発信。ペーパーレス化へ。属人化になってしまっている。人材育成が喫緊の課題。

(2) 学生 TA

- ・ 本校卒業生が、TA として課題研究活動をサポート。教員の負担軽減や生徒が将来像を持つことが可能になった。本年度からの取組みであるため、次年度以降の継続性、人材確保が課題。

(3) 学校設定科目 ※概要は「GL 部 中間報告」参照。

(4) SSH 関連のインプット・アウトプット活動

- ・ 初の企画(英語での発表会、科学英語、女性科学者、生物や情報関係コンテストなど)を実施。企画の整理整頓、生徒への各企画の連絡方法や、担当人員数などの再検討が課題。

(5) 高大連携

- ・ グローバルサイエンスキャンパスでは、大学と連携した課題研究の指導・企画の継続ができた。各業務担当者の明確化が課題。

(6) 探求ラボ

- ・1、2年生18名が参加。サイエンスカフェやオープンラボの実施。また9月からは顧問制を導入した。部活動や生徒会活動との両立が難しいことが課題。生徒のマンパワー不足が懸念される。教職員の付き添いにおいても、指導の関与の度合いや意欲に差がある。

【6】委員からの質疑事項（「→」は回答）

議事・報告事項について、以下の質疑応答および意見交換を実施した。

- ・〔委員〕研究授業について、15回行っているが教員のベクトルのそろえ方は？
→〔首席〕研究授業の内訳は初任の先生方が6回、各教科から代表を決めて9回。これ以外にも教員間で相互見学を行っているため、回数としてはもう少し多い。本校は授業力が重要であるため、シビアな意見交換がなされている。
- 〔校長〕学校全体でアクティブ・ラーニングを取り入れ、学びの3要素を確立することと、「進学」という二つのベクトルがある。ベクトルを整える意味では縛りはないが、授業の相互見学や意見交換によってまとめていく。
- ・〔委員〕ブログの教員へのフィードバックは？
→〔校長〕教員の授業を見学したあと、まずは廊下で話し、時間が空いたときに校長室で感想を述べている。ブログにも授業を見学したことをコメント付きで掲載し、教職員が見ることでフィードバックになっているのではないかな。
- ・〔委員〕四條畷小学校に行っていたが、高校生（本校生徒）の反応はどうだったのか？
→〔校長〕5年生90名の語学ルームを見学した。内容はスマホの活用について。本校の生徒会が「スマホ対策チーム」として、小学生と一緒に作成した動画を使用して説明をしていた。小学生に対する説明になるため、本校生徒もかなりの工夫をしていた。高校生にとっても良い経験になっていた。
- ・〔委員〕1分間スピーチにおいて、聞かせ方の工夫はどうしているのか？
- ・〔委員〕メーリングリストの登録者が少ないのでは？行事ごとに学校が（校長が）QRコードを用意するのが良いのではないかな。
- ・〔委員〕生徒が卒業するにあたり、確かな学力よりも人間性の育成をお願いしたい。四條畷高校に学校力をどんどんつけてもらいたい。
- ・〔委員〕ベトナム研修が全員女子なのは？
→〔教諭〕国際交流関係の希望者はほとんどが女子。本校だけではなく、オーストラリアからホームステイで来る生徒も、男子が3名であり、傾向は同じなのかも。
- ・〔委員〕課題研究において、多くの高齢者と接することは非常に大切なこと。多くの子供と会うことよりも、一層リアルである。将来教員を目指す生徒も多いことから、高齢者社会における素晴らしいリーダーが出てきてほしい。
- ・〔委員〕外部発表をすることによる、教職員の負担が大きい。PTA大会でも保護者の協力が呼びかけら

れた。

- ・〔委員〕 さまざまな活動を通して素晴らしい結果が出ているが、「高校生らしさ」を残してほしい。高校で見つけたことを、大学でもっと深めたいという意識につなげてほしい。そのため、高校で完成させなくてもいいと考えている。
- ・〔委員〕 全クラス文理科により教職員の業務量の増大するため、一斉退庁が実現しないのは当たり前。実際どのように業務を減少させるのか？
- 〔校長〕 目下ワーキンググループで検討中。たとえば可能な限り土曜の勤務を避ける（学校説明会など）、業務を減らそうという意識を持つ。
- 〔委員〕 平日・休日の部活動についてはどうなっているのか？
- 〔校長〕 ワーキンググループで検討中。土日の活動がある分、月曜日をノークラブデーにしている部活が多い。
- ・〔委員〕 授業においてアクティブ・ラーニングを実践していると感じた。様々な取組みをしつつも業務の「見える化」や災害時連絡への取組みも良いなどと思った。
- ・〔委員〕 放送局などは、youtuberなどと一緒に取り組んでいるところもあるので、そのような発信の仕方もあるのでは、と思った。
- ・〔委員〕 提出物は手書きなのか、ワードなのか？
- 〔教諭〕 課題研究など、残しておきたいものはデータで提出。そのほかは手書き。
- ・〔委員〕 課題研究で作成した論文データは外部から見ることができるのか？
- 〔教諭〕 校内では閲覧可能。外部への公開は考えていない。プリントアウトしたものを図書館に置いてあるため、閲覧可能。
- ・〔委員〕 探求ラボの位置づけは？
- 〔教諭〕 明確に部活動のリストには入っていない。入学当初に希望した者が加入する。
- 〔校長〕 課題研究の「授業」における水平化はできているが、その中でも「とんがった」発想をする生徒が探求ラボに加入する。
- ・〔会長〕 囁 explorer を見ただけでも業務が多い。報告の中でも新しく追加した部分の説明が多かった。ワーキンググループで削減していくべき。自分たち自身を守ることも忘れないこと。

【7】次年度使用教科書について

配布資料参照。

【8】第1回学校運営協議会について

HP上に公開、議事録配布。

【9】次回（第3回）について

- ・日 時： 2月12日～21日の間で検討。具体的な日程等は別途メールで調整。

【提出資料】

- 「大阪府立四條畷高等学校 平成 30 年度 第 2 回学校運営協議会」次第
- 「平成 30 年度 四條畷高等学校 学校運営協議会関係者名簿」
- 「大阪府立四條畷高等学校 学校運営協議会 実施要領」
- 「平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価」
- 「平成 30 年度 四條畷高校 国際交流事業 中間報告」
- 「平成 30 年度 四條畷高校 グローバルリーダーズ（GL 部）中間報告」
- 「NAWATE EXPLORER PROJECT」
- 「SSH 活動状況 中間報告」
- 「平成 31 年度使用教科書（選定・採択）一覧表」
- 「大阪府立四條畷高等学校 平成 30 年度 第 1 回学校運営協議会 議事録」